

Book Review

エビデンス×臨床判断から導く実践的歯周治療

星 嵩 著



Reviewer

杉田 龍士郎 Ryushiro Sugita
(千葉県・スギタ歯科医院)

A4判、160頁
カラー
定価 9,900円
(本体 9,000円+税 10%)
医歯薬出版刊
2025年7月発行



筆者にとって星先生は、東京医科歯科大学（現・東京科学大学）時代の同期であり、かれこれ二十年来の付き合いになる。星先生はイタリア料理を得意としており、彼が作る料理を肴に、酔い潰れるまで夜通しワインに舌鼓を打ったのは今となっては良い思い出である。

学生時代の星先生を一言で表すなら「真面目」である。当時、東京医科歯科大学に講演にいらしていたEPIC総帥・二階堂雅彦先生（東京都開業）に強く惹かれて、学生の身分でありながらその学びの場に足を運び始めたのである。その姿勢は、まさに群を抜いていた。

卒業後は星先生が歯周病科に、筆者は高齢者歯科に進み、それぞれ歯周病と補綴の専門医教育へと歩みを進めた。そんななか、お互いの学びを共有するために、三田 稔先生（昭和医科大学講師）を加え、それぞれの名前の頭文字をとって、勉強会「3-S」を立ち上げた。そこで星先生は、東京医科歯科大学歯周病科やEPICで培った最新の知見を披露し、その確かなエビデンスに裏打ちされた発表は、論文にほとんど触れたことのなかった筆者にとって、眩いほどに映った。特に「スリランカ研究」について熱を込めて語る姿は、今もなお鮮明に思い出される。

その後、筆者は米国へ留学し、補綴専門医資格を得たのち、歯周病学の専門医課程に進むこととなった。テキサス大学サンアントニオ校の歯周病科は全米でも屈指の名門であり、そこで本格的な歯周病専門医教育を受けることになった。古典論文700本と最新論文300本、年間1,000本に及ぶ英語論文を抄読し、特に古典論文は卒業までに3回繰り返すという厳格な課程であった。日本で歯周病学を学んだ経験のなかつた筆者にとって、それは半ば強制的に知識と技術を叩き込まれる過酷な過程であったが、3年に及ぶ修練の末に米国歯周病専門医の資格を得るに至った。

この経験を経て帰国した後、ようやく星先生の真価を理解できるようになった。星先生には留学経験はなく、いわゆる、純粋な日本国内での研鑽による歯周病専門医である。しかし、古典から最新に至るまでの文献に通じ、その知識の広がりと深さは、米国の専門医と比しても遜色なく、むしろ卓越していると断言できる。

*

このたび、星先生の著書を拝読し、改めてその力量に驚嘆した。かつて L. D. Pankey は、P. E. Dawson の初めての咬合理論に関する著作を評してこう

述べている。

それについて語れる歯科医

それを実践できる歯科医

それを記述できる歯科医

この3つすべてを備えた臨床家は稀であるが、Dawson はその稀有な存在であると。筆者はこの言葉を、今こそ星先生に捧げたい。

このたび刊行された星先生の著書は、実に完成度が高い。歯周病の病因論から寄与因子、総合診断へと進み、歯周基本治療、抗菌療法の是非、咬合との関連、歯周外科、そして、メインテナンスへと至る構成は、もし筆者が自身が執筆するすれば、ほぼ同じ流れを選ぶであろうと思われる。米国歯周病学のエッセンスが凝縮されており、内容・引用論文の選択においても、筆者の想像と驚くほど重なる部分が多い。筆者も歯周病専門医として、日本の歯科医学の発展のために歯周病学に関する書籍を執筆しようと考えていたが、星先生の本を読んで、筆者の出る余地はないと思うに至った。星先生に、自分が書きたかったことのほとんどすべてを書かれてしまったからである。それほどまでに、本書は優れた成果であり、歯周病学を志す若手歯科医師にとって、最初に手に取るべき一冊として、自信をもって推薦したいと思う。